2022年度　太田看護専門学校　自己点検・自己評価結果

１．自己点検・自己評価目的

自校の教育活動および学校運営の状況についての評価を行い、運営の改善点を明らかにし教育水準の向上並びに設置目的を達成するために組織的・継続的に取り組むことを目的とする。

２．実施方法

学校評価は厚生労働省の「看護師養成所の教育活動等に関する自己評価指針」を基に、９カテゴリーの評価を各職員が３段階評価し（できている：3点　まあまあできている：2点　あまり若しくはできていない：1点）平均点を抽出し考察した。授業評価は科目ごとに学生が本校作成の評価表（20 項目）を用いて評価し、すべての学科目の平均点を抽出し考察した。

３．自己点検・自己評価委員会組織

太田看護専門学校自己点検・自己評価委員会が学校評価を行い、授業評価実務委員会が授業評価を行う。

４．自己点検・自己評価結果

①学校評価結果

表１　カテゴリー毎の平均点数

評価項目		2022 年度
Ⅰ	教育理念・教育目的	2.87
Ⅱ	教育目標	2.87
Ⅲ	教育課程経営	2.61
Ⅳ	教授・学習・評価過程	2.58
Ⅴ	経営・管理過程	2.48
Ⅵ	入学	2.63
Ⅶ	卒業・就業・進学	2.61
Ⅷ	地域社会／国際交流	2.16
Ⅸ	研究	2.14

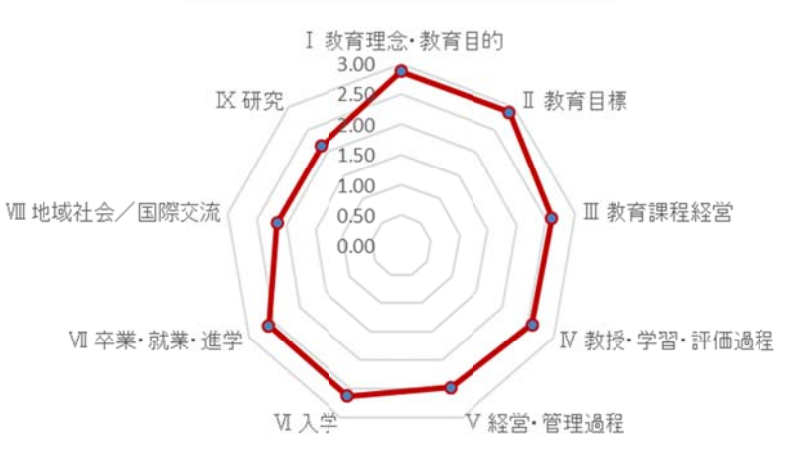


図1　2022年度自己点検自己評価結果

今年度からのカリキュラム改正にむけて話し合いを重ねてカリキュラム構築を図ってきたことが、カテゴリー「Ⅰ教育理念・教育目的」「Ⅱ教育目標」の高い結果につながっていると思われる。「Ⅷ地域社会／国際交流」は国際交流に関する項目の点数が影響し低くなっている。国際交流の項目の中でも留学に関する項目（表2）の３と４が「1.33」「1.42」と低い状況である。前例に留学に関する該当者がいないことから、常時の体制は整えていない。しかし、海外での就職に必要な書類発行には対応している。その体制は継続していく。また、他項目の強化で補えることはないか検討していく。同じく低い項目は「Ⅸ研究」であった。項目３が「2.00」で最も低かった。研究活動は研究担当が決まっているため、相互で支援するというイメージが付きにくいと思われる。教員が研究に自由に取り組み、教員同士が配慮しあって研究活動を支える風土を作っていきたい。

表２　点数が低いカテゴリーの項目

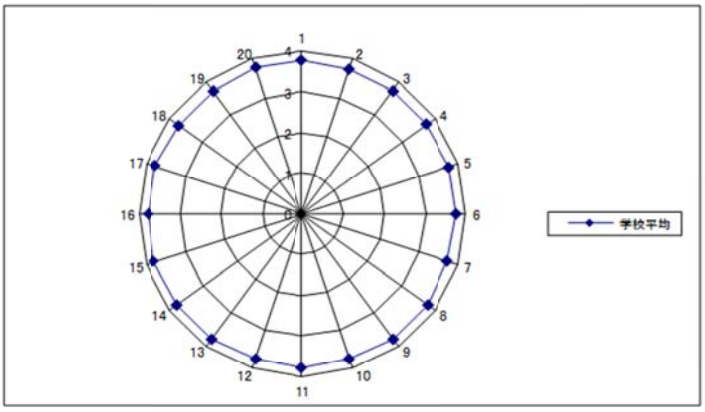
カテゴリー		項　目
VIII	3	海外からの帰国学生や留学生の受け入れ体制を整えている。
	4	留学や海外において看護職に就くこと等を希望する学生に対応できる体制を整えている。
IX	3	研究に価値をおき、研究活動を教員相互で支援し合う文化的素地が養成所内にある。

②授業評価結果

【学校集計】　学生数234名　　2022　年度

	質問番号	質　問　内　容	学校平均 2022	2021	昨年比
授業内容と構成	1	教育目標と科目のつながりが理解できた。	3.77	3.82	−0.05
	2	授業の要点が分かりやすかった。	3.73	3.80	−0.07
	3	授業の結論が明確だった。	3.75	3.80	−0.05
教育技術	4	学生への質問の内容・量は適切だった。	3.75	3.80	−0.05
	5	説明の際の用語や事例は適切だった。	3.76	3.83	−0.07
	6	教材の使用は適切だった。	3.78	3.82	−0.04
	7	教員からの一方的な講義ばかりではなく、学生も参加できた。	3.73	3.78	−0.05
	8	教員は学生を尊重した態度で接していた。	3.77	3.81	−0.04
	9	教員自身の意見や考えを適度に現していた。	3.79	3.82	−0.03
	10	教員の説明は、具体的でわかりやすかった。	3.73	3.79	−0.06
	11	教員の声は聞き取りやすかった。	3.77	3.83	−0.06
	12	教員は、学生の理解度を確認しながら授業を進めていた。	3.74	3.79	−0.05
	13	課題の量は適切だった。	3.78	3.83	−0.05
	14	課題には意欲的に取り組んだ。	3.79	3.83	−0.04
学生自己評価	15	課題は授業の理解に役だった。	3.82	3.84	−0.02
	16	授業には興味を持って取り組んだ。	3.79	3.82	−0.03
	17	授業には集中して取り組み、準備物を忘れたこともなかった。	3.81	3.81	0.00
	18	自分の授業態度は、私語や居眠りなどはなかった。	3.72	3.73	−0.01
	19	わからないことは自分から質問したり自己学習をしたりして解決に努めた。	3.71	3.71	0.00
総合評価	20	全体としてこの授業に満足している。	3.77	3.81	−0.04
			94.20%	95.20%	−0.79

【質問別得点】



総括	今年度はWebを活用しQRコードで授業評価を実施した。授業終了後3日以内に評価としているが、後期は遅れることが多く学生に声掛けや期限を延ばすなどの対応を取った。しかし例年より自由記載が少なく記載のない科目もあった。学生の思いを知る自由記載は授業評価には重要であるため、Web のメリットを生かしつつ学生の記載が増えるよう工夫する必要がある。全体の授業満足度では94％で昨年度より1ポイントダウンしている。項目別でも授業内容と構成の満足度は93.8％（昨年度よりマイナス1.2ポイント）、教育技術は94％（昨年よりマイナス1ポイント）、学生自己評価は94％で昨年とほぼ同じであった。今年度も感染状況によって遠隔授業や遠隔実習に何度か変更となったが、学生の自己評価はほぼ昨年通りであった。これは電子テキストや資料が手元にあることで学習の取り組みに戸惑いが少なかったためと思われる。「授業の要点の分かりやすさ」や「説明の分かりやさ」、「聞き取りやすさ」では、遠隔授業で学生の反応がみえないため一方的な授業になりやすく評価が下がった要因の一つと考えられる。電子テキストについては効果的に活用できるよう状況確認、評価をしていく。学生の学習環境を整えるとともに、教育方法の工夫と教育力の向上が課題である。